

(1) 保存地区の概要

地 区 名	鹿島市浜庄津町浜金屋町	地 区 名	鹿島市浜中町八本木宿
種 別	港町・在郷町	種 別	醸造町
面 積	約2.0ヘクタール	面 積	約6.7ヘクタール
選定年月日	平成18年7月5日	選定年月日	平成18年7月5日
特 徴	鹿島市浜庄津町浜金屋町伝統的建造物群保存地区は、川港を背景として成立した在郷町であり、成立期の地割を良く残し、長崎街道の一つ多良海道沿いを中心に、漁師や職人が居住したとみられる江戸時代後期から近代にかけて建築された茅葺町家と棧瓦葺町家が混在して密集している。	特 徴	鹿島市浜中町八本木宿伝統的建造物群保存地区は、江戸時代の宿場町から酒造など醸造業を中心に発展したまちで、街路と水路を基本とする地割が良く残る。また、居蔵造や茅葺、棧瓦葺の町家、土蔵造の酒蔵、武家住宅、洋風建築など江戸時代後期から昭和に至る様々な時代の建築が豊かな町並みを創出している。



(1) 保存地区のあゆみ

平成9年度(1997) (～11年度)	伝統的建造物群保存地区保存対策調査
平成14年度(2002)	「鹿島市肥前浜宿歴史的なまちなみ活性化マスタープラン」策定
平成15年度(2003)	「鹿島市歴史的景観条例」制定
平成18年度(2006)	『重要伝統的建造物群保存地区』2地区選定 修理・修景・防災事業スタート
平成20年度(2008)	映画「島田洋七の佐賀のがばいばあちゃん」のロケ
平成21年度(2009)	假屋崎省吾特別花展開催
平成22年度(2010)	「鹿島酒蔵ツーリズム」「肥前浜宿秋の蔵々まつり」スタート
平成27年度(2015)	「手づくり郷土賞」一般部門国土交通大臣賞受賞(NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会・鹿島市) 「全国町並みゼミ鹿島・嬉野大会」開催
平成28年度(2016)	第2回「美し国づくり景観大賞」受賞(NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会・佐賀県) 日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産2016」登録(NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会)
令和元年度(2019)	令和元年度「ふるさとづくり大賞」最優秀賞受賞(鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会)
令和3年度(2021)	九州沖縄ブロック町並みゼミ鹿島大会開催 肥前浜宿重伝建選定15周年記念事業開催
令和4年度(2022)	2022年アジア都市景観賞受賞 鹿島酒蔵ツーリズム 4年ぶり開催
令和6年度(2024)	天皇皇后両陛下が御訪問 2024年度 日本建築学会九州支部 建築九州賞 業績賞受賞

(3) 保存地区の保存と整備

- 選定後17年間の伝統的建造物の修理保存の実績
- 伝統的建造物等を守る為の防災施設等事業の実施
- 歴史的町並み景観の復活
- 伝建事業の補完として、街なみ環境整備事業により無電柱化や道路美装化、駐車場等を整備



修理前



修理後



まちなみ消火栓



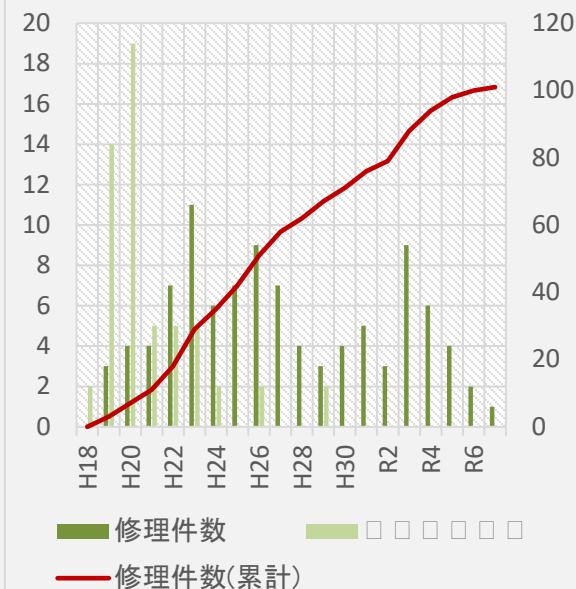
散水設備



ポンプ格納庫



自動火災報知設備



(4) 保存地区の活用とまちづくり

その1 観光客の増とまちづくり

- 観光客の増加
- まちなみ保存活動と一体になった継続的なまちづくり活動
- 継続的なまちなみ学習による子どもたちの郷土愛の育成
- 観光地としてのマスコミ等の注目度の向上
- 伝建を活かしたまちづくり視察の増加
- 国際交流、景観の取り組み等での大学との連携や学生の研究
- 鹿島酒蔵ツーリズムの成功による酒造業の復活
- まちづくり会社設立、観光まちづくりの推進



まちなみガイド



酒造業の復活



鹿島酒蔵ツーリズム®



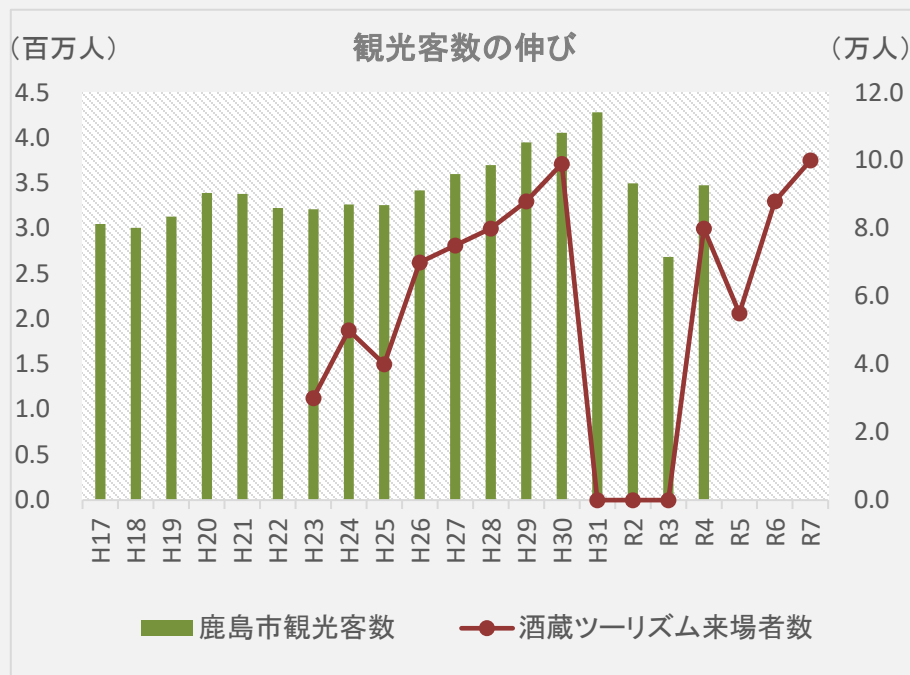
小学生のまちなみ学習



佐賀大学の国際セミナー



映画のロケ『島田洋七の佐賀のがばいばあちゃん』



※R5年度以降観光客数の統計データが無いため不記載

(4) 保存地区の活用とまちづくり

その2 伝統的な空き町家・酒蔵の活用と移住者の増

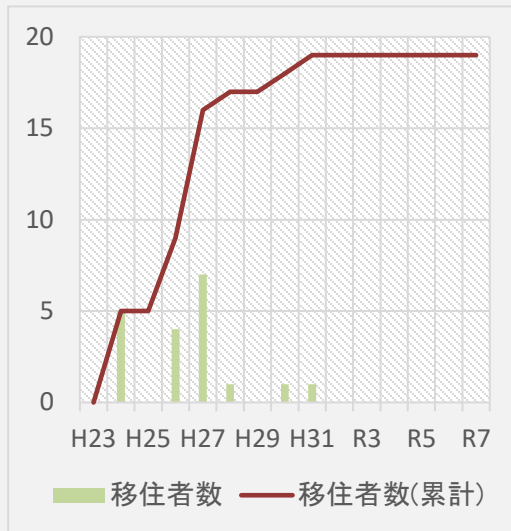
- 伝統的な建造物をイベント(酒蔵コンサート・展示等)で活用することにより新たな活用の可能性と、空き家の解消へ
- 移住や出店希望者の増加
- 伝統的技術(左官・大工・板金・茅葺等)や職人の確保と継承



祭りに参加する移住者



酒蔵でのファッションショー



茅葺職人



左官職人

(5) 住民等の取組

地元の声



- 地元のまちづくりNPO理事 (70歳代男性)

「重伝建選定とその後の10年が経過しての思い」

疲弊した町を立て直すことは簡単ではありません。平成6年頃より重伝建地区選定へ活動をはじめ平成18年に選定を受けました。選定を受けられないと町が残れないとの危機感がありましたので未来への希望が湧き嬉しく思いました。かつての美しい景観を取り戻すことは人々に力を与えてくれます。16年間続けている「酒まつり」には二日間で8万人の来客があり、また若者の移住が増え将来へ向けて嬉しい状況です。これからも、若者の感性と地元の伝統を踏まえた町づくりを目指したいと考えています。



- 移住者Kさんの声 (30歳代男性)

「このまちは人があたたかく、よそ者(移住者)の言うことや、考えていることでもきちんと親身に聞いてくれる。居心地がよくて、いつの間にか住み着いてしまった」